

広島市郷土資料館の基本的運営方針

1 郷土資料館の役割・使命について

郷土資料館は、「郷土の歴史に関する資料を収集し、保管し、展示して市民の利用に供し、その教養、調査研究等に資するため」に設置されたもので、広島市とその周辺地域に残された資料や情報について、収集・整理・保管・調査研究・展示・普及活動等を行うことにより郷土文化の継承を行い、市民等への学習機会の提供を行う博物館であると考えています。

その具体的な役割・使命については、次のようなものと考えています。

○収蔵施設としての役割

今日の広島を築いてきた人々の活動の中から、将来にわたって受け継ぐべき資料や情報を収集し、それらを整理したうえで、市民の共有財産として保管する役割。

○調査研究施設としての役割

収集した資料や情報の意義を明らかにし、その成果を展示・普及事業等を通して公開・活用する役割。

○展示施設としての役割

広島的气候風土の中で培われてきた伝統的地場産業や昔の暮らしをテーマとした常設展を行うほか、市民に興味を持ってもらえるテーマで企画展を開催する役割。

○教育施設としての役割

ものづくりや年中行事に関する教室事業、歴史講座、講演会等を開催することで、学校教育や生涯教育を支援する役割。

○地域支援センターとしての役割

郷土資料館の博物館活動の成果を、市民が推進する地域づくりや歴史学習、マスコミなどによる地域情報発信に提供する役割。また、ボランティアの活動の場として、あるいは学校休業日に子ども達が安心して過ごせる居場所としての役割。

○広島市重要有形文化財としての役割

近代建築で被爆建物でもある建物の特徴を活かし、広島近代史を伝え平和学習を支援する役割。

2 郷土資料館の活動方針

近年、郷土資料館に対する市民のニーズは多様化しており、より細分化され、質的にも高度化・専門化した事業展開が求められています。このようなニーズに応えるには、広島県の歴史・文化・風土に関する探究、すなわち「広島学※」の探求をさらに進展させ、その成果を活用した事業を展開する必要があります。

※広島学：郷土広島の歴史・文化・風土について、従来の歴史学や民俗学の枠を超えてさまざまな面から総合的に研究すること。

これをふまえ、郷土資料館では、「広島学」の探求成果を活用し、以下に掲げる(1)～(3)を基本方針とし、その実現のために①～⑧で掲げた各項目を重点的に実践する必要があると考えます。

これらの項目の実践によって、SDGs（持続可能な開発目標）の17の目標のうち、目標4「質の高い教育をみんなに」を目指すとともに、目標11「住み続けられるまちづくり」に貢献していきます。

(1) 「伝える博物館」

今日の広島を形成した先人たちの残した資料や情報を収集・保存し、未来に伝えるとともに、展示や普及事業などにおいて活用します。

① 博物館資料の適切な保存・活用

広島県の歴史・文化・風土に関する資料や情報を収集し、これらを整理・分類・調査研究の諸活動を経て博物館資料化させ、それらを収蔵庫等において適切に保管し、未来に伝えるとともに、展示や普及事業などにおいて活用します。

(2) 郷土資料館建物の保存・活用

郷土資料館の建物は、市内に残る数少ない明治時代の近代建築物として、あるいは被爆建物として広島市重要有形文化財に指定されています。その重要性を再認識し、建物の保全に努めるとともに広島県の近現代史を物語る生き証人として活用します。

② 「学び楽しむ博物館」

広島県の歴史・文化・風土について安全かつ快適に“学び、楽しむ”ことができる教育文化拠点として、多様な学びの場・楽しみの場を提供します。

③「広島学」探求成果の公開

「広島学」探求成果を活用した展示や普及事業を展開し、市民に広島歴史・文化・風土を“学び、楽しむ”場を提供します。

④見る博物館から体験する博物館への移行

郷土資料館が所蔵する資料の多くは、先人たちが日々の暮らしの中で実際に使用してきた生活道具（民具）です。民具資料は実際に触れて使うことでより理解が深まるため、体験型の展示や普及事業を多く導入し、楽しみながら民具に込められた知恵と工夫を発見し、現在の生活に活かすことが出来る体験の場を設けます。

(3)「つながる博物館」

市民が推進する地域づくりや歴史学習を、あるいは学校教育での地域学習をサポートします。

⑤市民と協働する、わかちあう博物館へ

地域の歴史・文化・風土に着目した“地域づくり”を進める市民や、ライフワークとして地域の歴史・文化・風土を学び楽しむ市民に対し、郷土資料館の博物館活動の成果を共有財産としてわかちあうだけでなく、市民とともに探求することで、知る楽しみもわかちあいます。

⑥学校教育との連携強化

郷土資料館は、今日の家庭教育・学校教育の場では希薄となった、伝統文化や生活体験を実感できる教育施設としての役割が求められています。学校のカリキュラムに沿ったプログラム作成、ゲストティーチャーへの対応など、学習支援機関として充実を図っていきます。

⑦博物館活動の多角的展開

今日の博物館のあり方として、館内だけでなく館外においても積極的に事業を展開することが求められています。館が所蔵する資料や情報を提供するだけにとどまらず、講座への出講に対応するなど、学芸員という人的資産を館外でも活用できるよう、事業を多角的に展開します。

⑧他館との連携・協働の推進

広島の伝統的地場産業、人々の暮らしを中心的に扱う博物館として、市内外の博物館・図書館・文書館等の施設と役割分担を図ったうえで連携し、効果的に事業を推進します。